



※2.記録と美の出品作品である、小川 一真《唐招提寺 破損
仏・鼓楼》1888年 東京都写真美術館蔵の「唐招提寺」の表記
に誤りがございました。関係者の皆様に心からお詫び申し上
げますとともに、正誤をお知らせいたします。

誤) 唐招堤寺

正) 唐招提寺

提供年月日：令和6年(2024年)11月12日

所属名：滋賀県立美術館

担当者名：小松(広報担当)

芦高(学芸担当)

連絡先：077-543-2113

E-mail:museum@pref.shiga.lg.jp

滋賀県立美術館開館40周年記念

「BUTSUDORI ブツドリ：モノをめぐる写真表現」

2025年1月18日(土)～3月23日(日)

BUTSUDORI:
The Photographic Expression
of "Objects"

2025.1.18土-3.23日
滋賀県立美術館
滋賀県立美術館 展示室3 | Shiga Museum of Art: Gallery 3

開場時間：9:30-17:00 (入場は16:30まで)
休場日：月曜日(ただし2月24日[月・振替]は開館し、2月25日[火]は休館)
主催：滋賀県立美術館、京都新聞 | 特別協力：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
助成：公益財団法人DNP文化振興財団 | 企画：芦高 裕子(滋賀県立美術館学芸員)
Period: 2025.1.18 Sat - 3.23 Sun | Opening Hours: 9:30-17:00 (Tickets available until 30 minutes before closing.)
Closed: We are closed on Mondays.
(The museum will be open on Monday, February 24 and closed on Tuesday, February 25.)
Organizers: Shiga Museum of Art and The Kyoto Shimbun
With the special cooperation of:
Tokyo Photographic Art Museum operated by Tokyo Metropolitan Foundation for History and Culture
Grants from: DNP Foundation for Cultural Promotion.
Curator: Ashtaka Ikuko (Shiga Museum of Art)

滋賀県立美術館開館40周年記念 Shiga Museum of Art 40th Anniversary
ブツドリ、モノをめぐる写真表現

【見どころ】

- * 「ブツドリ(物撮り)」をテーマに幕末から現代まで培われてきた日本の豊かな写真表現をご紹介します。
- * 重要文化財である文化財写真から、静物写真、広告写真、現代アーティストの作品まで、多種多様な作品を楽しめます。
- * 写真研究者を招き、モノと写真をテーマとしたシンポジウムを開催します。
- * 子ども向けのワークショップとして、グラフようちえん in 滋賀県立美術館「写真作品を撮ろう」、たいけんびじゅつかん「フォトグラムに挑戦!」を開催します。
- * 子どもから大人まで、いつでも楽しめるワークショップコーナーを設けます。

1. 本展について

ふと目に入った日常の「モノ」にレンズを向ける。カメラを手にしたことのある人であれば、誰しもが経験したことがある行為ではないでしょうか。カメラからスマートフォンへ、撮影するという行為はさらに一般的になり、SNS の普及により「モノ」を撮影した多くの写真が世界中に溢れています。

タイトルの「ブツドリ(物撮り)」という言葉は、もともとは商業広告などに使う商品(モノ)を撮影すること。この「ブツドリ」を「物」を「撮」という行為として広く捉えてみると、写真史の中で脈々と続いてきた重要な表現の一形式であることに気がつきます。

本展は「モノ」を撮影することで生まれた写真作品を、この「ブツドリ」という言葉で見なおし、日本における豊かな表現の一断面を探る試みです。重要文化財である明治期の写真原板から、文化財写真、静物写真、広告写真、そして現代アーティストの作品まで、200 点以上の写真作品を出品します。

わたしたちにとって身近な「ブツドリ」。その奥深さを覗いてみましょう。

2. 開催概要

展覧会名(正式)：滋賀県立美術館 開館 40 周年記念

「BUTSUDORI ブツドリ：モノをめぐる写真表現」

展覧会名(略記)：「BUTSUDORI ブツドリ：モノをめぐる写真表現」

展覧会名(英語正式)：Shiga Museum of Art 40th Anniversary

「BUTSUDORI The Photographic Expression of “Objects”」

展覧会名(英語略記)：「BUTSUDORI The Photographic Expression of “Objects”」

会 期：2025 年 1 月 18 日(土)～3 月 23 日(日)

※会期中に一部展示替えがあります

休 館 日：毎週月曜日(ただし休日の場合には開館し、翌日火曜日休館)

開場時間：9:30～17:00(入場は 16:30 まで)

会 場：滋賀県立美術館 展示室 3

観 覧 料：一般 1,200 円(1,000 円)

高校生・大学生 800 円(600 円)

小学生・中学生 600 円(450 円)

※()内は 20 名以上の団体料金

※企画展のチケットで展示室 1・2 で同時開催している常設展も無料で観覧可

※未就学児は無料

※身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳をお持ちの方は無料

主 催：滋賀県立美術館、京都新聞

特別協力：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

助 成：公益財団法人 DNP 文化振興財団

企 画：芦高郁子(滋賀県立美術館 学芸員)

3. 小さなお子さんがいる、障害があるなど、様々な理由で来館を迷っている方へ

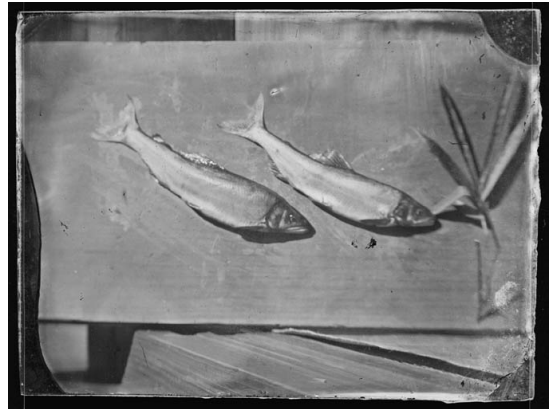
当館では、展示室でもしーんと静かにする必要はなく、おしゃべりしながら過ごしていただけます。また、目が見えない、見えづらいなどの理由でサポートや展示解説をご希望される場合や、その他、ご来館にあたっての不安をあらかじめお伝えいただいた際には、事前の情報提供や当日のサポートのご希望に、可能な範囲で対応します。

4. 展覧会の構成

1. たんなるモノ

本章では、幕末の写真家・島霞谷^{しまかづ}が撮影した《鮎》と《頭蓋骨標本》と、モノを撮影することを実験的に思索した大辻清司の「大辻清司実験室」に掲載された作品、日常を独自の表現として昇華した川内倫子の〈M/E〉を展示します。島の《鮎》をじっくりと観てみると、妙に揃った尾鰭やまな板上の配置に構成的な要素を見出すことができます。また《頭蓋骨標本》は、島が大学で写学生[※]をしていた頃に撮影されたものとされています。もちろん写学生として記録のためという側面もあったでしょう。しかし、頭蓋骨は静物画でもよく用いられるモチーフ。その造形や連想されるイメージは、「たんなるモノ」以上の豊かさを持っています。

※公文や書史を書き写すための職員



島 霞谷《鮎》1860年代
個人蔵（群馬県立歴史博物館寄託）
群馬県指定重要文化財

2. 記録と美

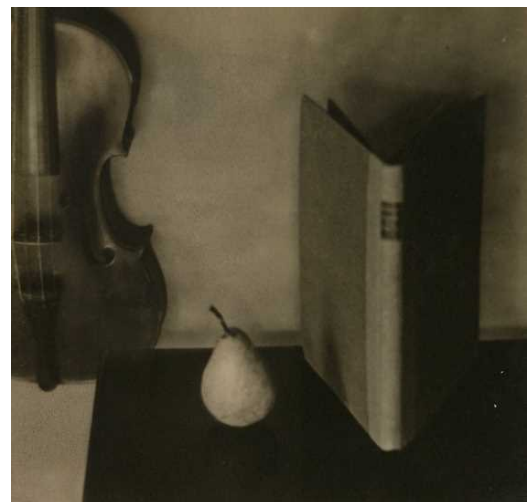
明治政府による文化財保護への初めての施策であった壬申検査(明治5年)では、写真家・横山松三郎が随行し、正倉院宝物や仏像などの写真が撮影されました。本章では、重要文化財に指定されている壬申検査のガラス原板、作家性をおび始めた頃の古美術写真、そして仏像写真におけるそれぞれの眼差しをみてゆきたいと思います。また、これらの文化財写真とともに、古書をオブジェとして撮影した潮田登久子の〈Bibliotheca〉を展示します。



小川 一眞《唐招提寺 破損仏・鼓楼》
1888年 東京都写真美術館蔵

3. スティル・ライフ

明治から大正にかけての日本では、写真に芸術性を求めるアマチュア写真家らを中心に絵画的な写真が志向されました。いわゆるピクトリアリズムと呼ばれる写真動向において、1920年代より、一部の芸術写真家らは、静物写真に注目しはじめます。これらの1920年代、30年代の静物写真とともに、本章では、母の遺品を撮影した石内都の〈mother's〉、物体を撮影することで他者からの見え方を模索する安村崇の〈態態〉を展示します。



高山 正隆《静物》1920-1929年
東京都写真美術館蔵

4. 半静物？ 超現実？ オブジェ？

1930 年前後から、カメラやレンズによる機械性を生かし、写真でしかできないような表現を目指した写真が盛んになります。これらのいわゆる新興写真は、ドイツの新月主義（ノイエザッハリヒカイト）やシュルレアリスムに影響を受け、前衛写真へと引き継がれてゆきます。本章では、モダンフォトグラフィの潮流の中で、前衛的な写真表現をおこなった中山岩太や安井仲治などの作家の作品を展示します。これにあわせて、オノデラユキの〈古着のポートレート〉、野菜や魚などの食材や、花や昆虫を素材として特異なオブジェを制作する今道子の作品も展示し、前衛写真との表現上の共通性を概観します。



安井 仲治《斧と鎌》1931 年
東京都写真美術館蔵

5. モノ・グラフィズム

本章では、モノをめぐるグラフィックデザインとして、日本における初期の広告写真から、ポスターなどの広告にみられるグラフィック表現を紹介します。また、ホンマタカシが猪熊弦一郎のアンティークコレクションを撮影した『物物』のプロジェクトを展示します。写真家による多種多様な「物撮り」のイメージをお楽しみください。



撮影：ホンマタカシ
『物物』2012 年刊行 猪熊コレクションより

6. かたちなるもの

新興写真や前衛写真に影響を受け「造型写真」という言葉で独自の表現を目指した坂田稔。動植物を即物的に捉えた写真集『博物志』を発表した恩地孝四郎。日本の伝統的なデザインから、さまざまな「かたち」にフォーカスした岩宮武二。日本の写真における抽象表現の先駆的な存在である山沢栄子。カラフルなスポンジを組み合わせ造型化した鈴木崇の〈BAU〉。本章ではモノの「かたち」に着目した写真家の作品を紹介します。



山沢 栄子《What I Am Doing No.77》
1986 年 東京都写真美術館蔵

ドロップインワークショップ

本展では、展覧会の最後に、鑑賞者がいつでも楽しめるワークショップコーナーを設けます。展覧会を通して感じたことをかたちにすることができます。

5. 図録

本展に出展される作品および資料のカラー図版、作品解説、担当学芸員の論考などを掲載します。

「ブツドリ」をテーマに、幕末から現代までの日本における写真表現の一断面を概観するとともに、「モノを撮る」という私たちにとって身近なキーワードに迫る、他にはない貴重な内容となっています。

6. 関連イベント

◆シンポジウム「モノと写真：近代から現代へ、その視点」[事前申込不要／無料]

モノと写真をテーマとしたシンポジウムを開催します。

日時：3月9日（日）13：00～15：45

登壇者：金井直（信州大学人文学部教授）

前川修（近畿大学文芸学部教授）

光田ゆり（多摩美術大学大学院教授・アートアーカイヴセンター所長）

場所：木のホール

定員：100名

◆グラフようちえん in 滋賀県立美術館「写真作品を撮ろう」[事前申込不要／無料]

幼児から小学生まで参加できるワークショップを開催します。

日時：2月8日（土）10：00～16：00

企画：graf

場所：ギャラリー

◆たいけんびじゅつかん「フォトグラムに挑戦！」

[要事前申込／抽選／要参加費（保護者の方のみ要観覧料）]

小・中学生とその保護者の方を対象とした、展覧会の鑑賞と創作体験がセットになったワークショップを開催します。

日時：1月26日（日）、2月23日（日）13：00～15：30

講師：徳永写真美術研究所

場所：ワークショップルーム

定員：各回10名

◆学芸員によるギャラリートーク[事前申込不要／当日先着／要観覧料]

本展を担当学芸員の解説付きで鑑賞します。

日時：1月18日（土）、2月16日（日）、3月15日（土）

各日とも14：00～15：00

場所：展示室3

定員：各回20名程度

7. 内覧会

(1) 開催日：2025年1月17日（金）

(2) 会場：滋賀県立美術館（大津市瀬田南大萱町 1740-1）

(3) タイムスケジュール【予定】

①プレス限定の内覧会

13：00～13：30 受付

13：30～14：10 本展担当学芸員 芦高郁子による展覧会場のご案内

14：10～14：50 説明会（木のホール）

- ・当館ディレクター 保坂健二郎のご挨拶
- ・本展担当学芸員 芦高郁子による展覧会内容のご紹介
- ・質疑応答

※13：00～13：30 は、展覧会場を自由にご取材いただくことができます。

②招待者や関係者による内覧会

15：00～15：15 オープニングセレモニー

- ・当館ディレクター 保坂健二郎のご挨拶
- ・滋賀県副知事 岸本織江のご挨拶（調整中）
- ・京都新聞社 滋賀本社 代表 石川一郎様のご挨拶

15：15～17：00 内覧会（招待者らが展覧会場を自由にご観覧）

※自由にご取材いただくことができます。ただし、オープニングセレモニー中は、展覧会場に入場いただくことができませんので、あらかじめご容赦ください。

(4) 参加申込み

参加を希望される方は、別添「内覧会参加返信表」に必要事項をご記入の上、2025年1月16日（木）までに、メールまたは FAX にてお知らせください。お車でお越しの場合は、びわこ文化公園の駐車場（無料）をご利用ください。（機材の持ち込みなどの都合上、美術館前までお車の乗り入れが必要な場合は、別途ご相談願います。）

(5) 注意事項

天災地変等の突発的な事情により、内覧会の内容を変更させていただく場合や開催を中止する場合があります。なお、開催中止の場合は、参加申込みの際にいただいたご連絡先にお知らせします。

8. 同時期に開催する当館の展覧会（常設展）

- ◆常設展「SMoA コレクション ―新収蔵品を中心に―」
会期：2024年12月10日（火）～2025年3月23日（日）
会場：展示室1、展示室2
- ◆常設展 小倉遊亀コーナー「遊亀's モダン」
会期：2024年12月10日（火）～2025年2月2日（日）
会場：展示室1
- ◆常設展 小倉遊亀コーナー「人物の表現」
会期：2025年2月4日（火）～3月23日（日）
会場：展示室1

9. 次回開催予定の展覧会（企画展）

展覧会名：「あなたもこれで落語通！？」

美術作品で味わう噺の世界 「近江八景」から「頭山」まで（仮）」

会 期：2025年4月8日（火）～6月8日（日）

概 要：

本展では、当館が所蔵する山元春挙や小倉遊亀などによる日本画、志村ふくみの染織、ジョージ・シーガルなどのアメリカ美術、小幡正雄などのアール・ブリュット作品によって落語の噺を紹介します。落語通の方はもちろん、落語を知らない方も噺とともに美術作品を味わえる、一粒で二度おいしい企画です。滋賀ゆかりの演目である「近江八景」のほか、「猫の皿」「抜け雀」「頭山」など、くだらなくてあり得ない！けれどクスッと笑ってしまうコミカルな落語噺の世界を当館のコレクション作品とともにお楽しみいただければ幸いです。

10. 滋賀県立美術館の概要

- 1984年8月26日に滋賀県立近代美術館として開館しました。
- 日本画家の小倉遊亀（滋賀県大津市出身）や染織家の志村ふくみ（滋賀県近江八幡市出身）のコレクションは国内随一を誇っています。
- 2023年度末時点の収蔵件数は2,589件です（日本画・郷土 1,291件、現代美術 567件、アール・ブリュット 731件）。



滋賀県立美術館外観（撮影：大竹央祐）



滋賀県立美術館エントランスロビー（撮影：大竹央祐）

プレス限定内覧会参加返信表

申込期限:1/16 (木)

滋賀県立美術館 行き

Fax : 077-543-2170

Email : komatsu-akira@pref.shiga.lg.jp

<必要事項>

1) 貴社名 :

2) ご芳名 :

※参加される方すべてのご芳名を記入してください。

3) 参加人数 :

4) TEL :

5) E-mail :

6) 通信欄 :

広報用画像等申込書

滋賀県立美術館 行き

Fax : 077-543-2170

E-mail : komatsu-akira@pref.shiga.lg.jp

展覧会広報用素材として、作品画像を用意しています。ご希望の方は使用条件をお読みいただき、必要事項をご記入のうえ、FAX またはメールにてお申し込みください。なお、読者プレゼント用の招待券の提供をご希望の場合は、本申込書の記載欄に併せてご記入ください。

媒体名 :

種別 : テレビ ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー ネット媒体 その他

発売・放送予定日 :

貴社名 :

ご担当者名 :

E-mail :

TEL :

招待券希望枚数 : 枚 (送付先住所 :)

ご希望の画像にをつけてください。

<input type="checkbox"/>	① 島 霞谷《鮎》1860年代 個人蔵(群馬県立歴史博物館寄託) 群馬県指定重要文化財
<input type="checkbox"/>	② 小川 一真《唐招提寺 破損仏・鼓楼》1888年 東京都写真美術館蔵
<input type="checkbox"/>	③ 高山 正隆《静物》1920-1929年 東京都写真美術館蔵
<input type="checkbox"/>	④ 安井 仲治《斧と鎌》1931年 東京都写真美術館蔵
<input type="checkbox"/>	⑤ 撮影:ホンマタカシ『物物』2012年刊行 猪熊コレクションより
<input type="checkbox"/>	⑥ 山沢 栄子《What I Am Doing No.77》1986年 東京都写真美術館蔵
<input type="checkbox"/>	⑦ 滋賀県立美術館外観(撮影:大竹央祐)
<input type="checkbox"/>	⑧ 滋賀県立美術館エントランスロビー(撮影:大竹央祐)
<input type="checkbox"/>	⑨ 展覧会バナー(1ページ目の画像)
<input type="checkbox"/>	⑩ 展覧会チラシ(2パターン)

【使用条件】

※広報用画像をご使用の際は、各画像のクレジットを明記してください。

※広報用画像はすべて全図で使用してください。トリミング、縦横比の変更、文字や他のイメージを重ねるなどはご遠慮ください。

※展覧会基本情報と広報用画像の使用方法の確認のため、お手数ですが、校正原稿を当館へお送りくださいますようお願いいたします。

(記事内容や報道原稿を確認する意図ではございませんので、念のため申し添えます。)

※アーカイブのため、後日、掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。

※広報用画像は本展の広報・報道のみのご利用となります。ご利用後は必ずデータを破棄していただくようお願いいたします。